



オックスフォードの近く、テムズ川に近いアイルスベリー・バッキンガムシャーの丘陵地に、英国屈指の“貴族の館”ホテル「Hartwell House & Spa」がたおやかな姿で佇んでいる



ハートウェルハウスは、元々はウィリアム1世の所有地であったが、長い歴史の変遷を経てハートウェル家に譲渡され、現在の名称「Hartwell House」が引き継がれている



かつてルイ18世がフランス革命でパリを追われ、英国に亡命していた1809年から5年間にわたり亡命生活を送ることとなった由緒ある館である



筆者 **小原 康裕**  
ホテルジャーナリスト  
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。  
[www.jbrca.com/worldhotel](http://www.jbrca.com/worldhotel)  
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



12万㎡もある広大なハートウェルハウスの緑豊かな敷地には、樹林帯、水鳥が遊ぶ湖沼、付属教会など、英国カントリーサイドの大自然を満喫できる



このホテルの最大の見どころは、ジャコビアン様式で構築された階段空間“グレート・ステアケース”「Great Staircase」であろう。さまざまな中世騎士の像が階段の親柱や支柱にいくつも付けられた光景は実に圧巻である



多数の蔵書を誇る「Library」。この部屋でルイ18世が王位継承の署名をしたという



サロン「Drawing Room」や「Library」でアフタヌーンティーを楽しめる



重厚な雰囲気メインバー「The Bar」



年代物のタペストリーが掛かるロビーラウンジの「Great Hall」

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

### Hartwell House & Spa

オックスフォードの近く、テムズ川に近いアイルスベリー・バッキンガムシャーの丘陵地に、英国屈指の“貴族の館”ホテル「Hartwell House & Spa」がたおやかな姿で佇んでいる。かつてルイ18世がフランス革命でパリを追われ、英国に亡命していた1809年から5年間にわたり亡命生活を送ることとなった由緒ある館である。つまりナ





気品あるメインダイニング「The Soane Dining Room」。著名な建築家 Sir John Soane 氏がデザインした大広間をレストランとして修復したもので、仕切られたアーチとドーム状の天井が見事だ



“リー家”由来の「The Lee Suite」のベッドルーム。ホテル最大の面積を誇り、建物の中心に位置するグランドスイートルームである

ポレオンが退位しブルボン王朝復興の1814年までフランス亡命政府があった場所といえる。また以前、天皇后両陛下もお泊りになったという特別なステータスを持つホテルでもある。この由緒ある建物は大修復の後、1989年にホテルとして開業し、現在は Relais & Chateaux の重要なメンバーホテルの一員となっている。

ハートウェルハウスは、元々はウィリアム1世の所有地であったが、長い歴史の変遷を経てハートウェル家に譲渡され、現在の名称が引き継がれている。その後、名門のリー家が邸宅として所有し、その子孫がアメリカに渡り、南北戦争の南軍総司令官として活躍した人物が“リー将軍”である。このホテルの最大の見どころは、ジャコビアン様式で構築された階段空間“グレート・ステアケース”「Great Staircase」であろう。さまざまな中世騎士の像が階段の親柱や支柱にいくつも付けられた光景は実に圧巻である。

ハートウェルハウスは、スイートを含め全32室を3階建てのメインハウスに持つ珠玉のホテルだ。今回は“リー家”由来の「The Lee Suite」を紹介したい。ホテル最大の面積を誇り、建物の中心に位置するグランドスイートである。メインダイニング「The Soane Dining Room」は著名な建築家 Sir John Soane 氏がデザインした大広間をレストランとして修復したもので、仕切られたアーチとドーム状の天井が見事だ。その他、ロビーラウンジの「Great Hall」、多数の蔵書を誇る「Library」、アフタヌーンティーの「Drawing Room」、ロココ様式の眩いサロン「Morning Room」など、館内はまるで宝宝箱のような華麗なサロンで輝いている。スパ施設「The Hartwell Spa」はメインハウスから離れたガーデンの中に独立して建てられている。

ハートウェルハウスのスイートにはミニバーは置いてなく、すべてはバトラーが飲み物運び、レストランでも伝票サインは不要でスタッフがゲストの顔と名前を記憶している。ダイニングルーム前のホワイエには重厚なグランドピアノが置かれ、ディナーが始まると専属のピアニストが厳かに曲を演奏する。ちなみに、ここを訪問した時の美智子妃殿下は、このグランドピアノで数曲演奏されたといわれる。ここはまさに英国の“貴族の館”と言える。



エレガントな空気が流れるディナータイムの風景。仕切られたアーチとドーム状の天井が一部見える



ダイニングルーム前のホワイエには重厚なグランドピアノが置かれ、ディナーが始まると専属のピアニストが厳かに曲を演奏する



ベッドルームには心が癒される暖炉を用意



壮麗なリビングルーム。窓からは広大な緑豊かな敷地を望める



ロココ様式の眩いサロン「Morning Room」。館内はまるで宝宝箱のような華麗なサロンで輝いている



ハートウェルハウスの中心に位置するロビーラウンジの「Great Hall」



スパ施設「The Hartwell Spa」に続くガーデンアプローチ



温水の気持ち良いスイミングプール